

新潟市社会福祉協議会会員会費

皆様からご協力いただいた会員会費が地域を豊かにしています！

「だれもが安心して健康で暮らせる北区」を目指し、地域福祉のための事業・活動のために活用させていただきます。活動の趣旨をご理解いただき、本年度もご協力をお願いいたします。

活用しよう！助成金で地域をもっと元気に

皆様からご協力いただいた社会福祉協議会会員会費と赤い羽根共同募金の配分金を財源として、地域福祉活動に対して助成を行っています。主な助成金を紹介します。詳しくはホームページにも掲載していますので、ご覧ください。

地域ふれあい助成事業

(1) 多世代交流

自治会・町内会や各種団体を対象として、住民の世代を超えた交流を深めることを目的としています。



▲葛塚地区・川端自治会
川端祭



▼葛塚地区・下他門自治会
神楽保存会
合同バーベキュー大会

(2) 居場所づくり

北区で活動する団体や施設などを対象にこどもから高齢者までさまざまな人たちが集う「居場所づくり」のきっかけづくりを目的としています。

(自治会・町内会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会(コミ協)、地域の茶の間、子育てサロン、子育てサークル、こども食堂、子育て支援団体など)



南浜地区
南浜にじり食堂

「助成の手引き」、「令和6年度事業報告・決算」、「令和7年度事業計画・予算」について、**北区社会福祉協議会ホームページ**(ダウンロード)に掲載しておりますので、どうぞご覧ください。



ホームページ

	助成金額
多世代交流	10,000円 (250世帯を超えることに5,000円上乗せして助成)
居場所づくり	10,000円 (年1回のみ) ひと月 1,500円 × 開催月数

※年度途中の申請も可能

一般会費

一世帯: 500円

自治会・町内会を通じて納入にご協力をお願いしております。

賛助会費

団体: 1口 2,000円

企業: 1口 5,000円

特別会員

福祉施設: 2,000円

福祉団体: 2,000円

誰もが幸せに過ごせる地域を目指して

～長浦コミュニティ委員会の取り組み～

長浦コミセン
公式LINE



令和6年度イチ押しの取り組みを教えてください

お茶の間応援事業と認知症研修会です。高齢者の多い地区だからこそ誰でも気軽に集える居場所が大事。そして認知症になっても暮らし続けられる思いやりあるまちにしていきたい。お茶の間応援事業では、お茶の間などの居場所へ講師派遣や開催・運営に関する支援等を行うことで、地域を支える人や団体を応援し、交流の推進や健康増進を図ります。認知症研修会は年々対象者を拡大し、令和6年度は、北区社会福祉協議会の**地域福祉活動計画推進事業の助成金**を活用して、70人の参加で山口クリニック院長の健康講座を開催しました。歌やマジック、腹話術も交えながらの講座を通して、人と交わり刺激ある楽しい日々を送ることが認知症予防につながることを学びました。2つの事業は今年度もパワーアップして開催します！



今後の展望をぜひお聞かせください

令和7、8年度のテーマは「地域コミュニティの促進」です。令和6年12月に開催した地域福祉座談会で地域の現状や課題について話し合った結果、「高齢者だけでなくみんなで未来あることもたちのことを考えよう」「コミセンを活かした更なる取り組みとして、世代を問わず楽しみを通して自然と交流できる機会をつくろう」ということになりました。令和7年度は新規事業として日本茶の淹れ方教室、親子料理教室、エレキコンサートなどを計画しています。ぜひコミセンに足をお運びください。

話し手: 柳澤事務局長



知ってる？ わたしたちの 町の民生委員



長浦・岡方地区
相馬清吉 民生委員に
お聞きしました

Q1. 民生委員になられて何年目ですか

平成28年7月1日に民生委員に委嘱されて9年になります。

Q2. 民生委員にはどんな役割があるのですか

民生委員は特別職の地方公務員ですが、報酬はなく、ボランティアとして活動しています。地域の推薦で、厚生労働大臣の委嘱を受けて民生委員となります。地域住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努めています。すべての民生委員は「児童委員」を兼ね、こどもたちの見守りや子育ての相談・支援なども行います。

Q3. 民生委員になられたきっかけを教えてください

前任者が病気になる、民生委員を続けられなくなったことから、自治会長から声を掛けられたことがきっかけです。コミュニティセンターに勤めていた関係で、民生委員の活動を少し知っていたので引き受けることにしました。

Q4. 日頃の活動内容について教えてください

毎月の高齢者宅への安否確認のために見守り訪問などを行っています。月に1度民生委員の定例会議があり出席します。1か月間の活動記録を区へ提出します。また、コミュニティ委員会の地域福祉部員としてコミュニティの活動に参加しています。

Q5. 大変なことはありましたか

要援護者の申請確認や友愛訪問で対象者宅を訪問すると、施設入所、入院等情報がないことに矛盾を感じます。また、今年12月1日に民生委員の改選がありますが、民生委員の欠員地区があると、その自治会は困ることになりますので、自治会長との連携で改選協力が必要です。

Q6. 嬉しかったことはありましたか

高齢者宅の訪問の際に「ご苦労様です」と訪問を喜ばれることや、こどもの朝のあいさつ運動に立っていると、こどもから「おはようございます」と声を掛けられ、こちらの方がこどもから元気もらっています。

Q7. 民生委員として大事にしていることがあれば教えてください

個人情報保護を頭に置き、継続するためには、無理なく続けられる体制をとることが大切です。継続して活動していくために、無理をしすぎないことが大事だと思います。

Q8. 地域の方へのメッセージがあればお願いします

昔は隣組で冠婚葬祭や何事も親戚以上の付き合いが多かったです。近年、家族のつながりも希薄になった時代だからこそ、隣近所の人と人とのつながりを大切にしていきたいです。

【チューリップニュータウンの概略】

自治会: 1丁目～4丁目の連合、
人口1,473人、世帯数469(令和7年5月末現在)
役員選出方法: くじ引き、任期: 1年

自治会長になったきっかけと、それまでの自治会との関わりを教えてください。

久保田さん 自分は転勤族なんですけど、明らか転勤しない年だったので、今のうちにやっておこうかなというぐらいの気持ちで、役員に立候補しました。その時に誰も会長をやりたいそうではなかったの、自分が立候補したのがきっかけですね。

それまでの自治会の関わりは、回覧板の確認や自治会のイベントに参加する程度でした。

粕谷さん 引っ越して約10年、役員決めのくじ引きを毎年引いてきましたが、くじ運が良く一度も当たることなく過ぎてきました。毎年くじ引きに行くのも面倒になってしまい、ある役職で立候補したら、久保田さんに声をかけられ自治会長を引き受けることに。それまでは、お祭りに買い物に行く程度で自治会活動にはほとんど関わっていませんでした。

自治会の現状と課題について教えてください。

粕谷さん チューリップニュータウンに限った話ではないかもしれませんが、新型コロナウイルスの感染拡大により、多くのものが分断されてしまったと感じています。時代の流れなのか、個人の自由や尊重が強く意識されるようになり、昭和時代のような近所付き合いが次第に敬遠されるようになってきた気がします。人との関わりが薄れたのは、どの地域でも共通することかもしれません。

自治会長 リレートーク

初回限定 新旧自治会長対談！

チューリップニュータウン(彩野)
Version



粕谷さん
(R7自治会長)

久保田さん
(R6自治会長)

そこで、今年の彩野まつりでは、個人同士がつながるきっかけを作れないかと考えています。これまでのお祭りとは違う新しい試みを取り入れ、人と人との交流を促す場にしたいと思っています。

地域の人に関心を持ってもらうために始めた自治会のSNSについて教えてください。

久保田さん 去年の、彩野まつりをきっかけに開設して、そのお祭りの出店状況とか、出店者のPRとかしてみました。現在、掲示板で連絡している自治会活動についても利用して情報発信してみました。

今後の可能性として、早通中学校は自治会に近いので、避難時に最初に到着する可能性が高いと思われます。避難所の運営って、避難運営を区役所職員達に任せて、避難者がお客さんになる避難所は全然上手くいかないからですね。Xやインスタでの

情報発信と交換が迅速に行われれば、「不足物資」「備蓄状況」「安否確認」などの情報共有が可能になるため、役員の中からこの取り組みを提案する声があり、実践してみることにしました。

今年度、自治会長として目指すことは何ですか？

粕谷さん 自治会活動は面倒だというイメージを持たれがちですが、実際には、確かに手間のかかることも多いけど、いろんな人と協力しながら地域をより良くしていく過程は、なかなか楽しいと思います。

自分が自治会活動を通じて目指したいのは、自分がそうだったように、こどもたちにも「ここに住んでよかった」と思ってもらことです。早通地域のレジェンドたちが長年一生懸命やってきてくれて、自分たちは「この町は楽しい」と思っているのかもしれない。だから、これからは自分たちがその役割を少しずつ継承していけばと考えています。

今期以降、自治会長や役員を担う方に向けて一言お願いします。

久保田さん 自治会の役員というと、「貧乏くじを引いた」と感じる人もいるかもしれません。しかし、役員だからこそ、「もっとこうすれば良くなる」と思うことを形にすることが出来ます。自分のこどもや親、そして将来自分が年を重ねたときに、住みやすくする地盤づくりをするためには、役員の活動が欠かせないし、面倒はあるけどやりがいもあります。

役員を務める人が増えれば、経験した人が次の役員の仕事にも関心を持つようになり、役員が一周して自治会活動が循環していけば、地域全体の結束も強まり、より良い地域ができるのではないのでしょうか。

インタビュー: 横尾